



令和6年度 広島市 第1層生活支援 コーディネーター 実践事例集



はじめに

広島市では、市・区社会福祉協議会に2名ずつ、生活支援コーディネーターが配置されています。地域団体やボランティアグループ、企業やNPO、専門機関など、様々な方の思いや情報をつなぎながら、支え合いの地域づくりに向けて日々奔走しています。

また、広島市において令和6年度より重層的支援体制整備事業が本格実施となり、生活支援コーディネーターの活動においても、「参加支援」「多機関協働」などをより意識した実践が図られています。

この実践事例集では、試行錯誤の過程や現在進行中の取組を一冊にまとめました。様々な方と共に取り組んだ過程を見える化することで、地域活動の価値の共有や取組の横展開につながるものと考えております。

ご覧いただいたみなさまには、生活支援コーディネーターの役割や視点（戦略）を知っていただき、地域の「あったらいいな」の実現に向けて力を貸していただけましたら幸いです。

～略字表記～

※この冊子では、次の用語については（ ）内の表示とします。

- ・ 社会福祉協議会（社協）
- ・ 民生委員児童委員協議会（民児協）
- ・ 地域包括支援センター（包括）
- ・ 生活支援コーディネーター（SC）
- ・ ボランティアコーディネーター（VCO）
- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）
- ・ 広島市住民主体型生活支援訪問サービス（住民主体型サービス）
※「介護予防・日常生活支援総合事業」介護予防・生活支援サービス事業の訪問B。
広島市から補助を受け、令和6年11月現在、市域43の地域団体が支援を実施しています。
- ・ 障害者基幹相談支援センター（基幹）
- ・ 高齢者地域支え合い事業（支え合い事業）

《広島市生活支援体制整備事業の目的》

(実施要綱第2条)

この事業は、単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、医療・介護のサービス提供のみならず、地域住民に身近な存在である市町村が中心となって、生活支援・介護予防サービス（以下「生活支援等サービス」）を担う事業主体と連携しながら、多様な日常生活上の生活体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図ることを目的とする。

また、重層的支援体制整備事業の趣旨を踏まえ、地域住民同士が交流できる多様な居場所の整備など、参加者の世代や属性を問わず多様なサービスが利用できる支え合いの地域づくりを目指す。

《SCの配置》

- 第1層SC（市SC）… 活動区域が広島市全域
市社協に専任の常勤職員2名
- 第1層SC（区SC）… 活動区域が行政区画（8区）
各区社協に専任の常勤職員各2名（計16名）
- 第2層SC（地域支え合いコーディネーター）…活動区域が包括の担当圏域（日常生活圏域）
各包括の常勤職員1名が担う（計41名）
※ 包括は市内41か所、全て委託

《広島市生活支援体制整備協議体とは》

(実施要綱第5条)

生活支援等サービスの体制整備に向けて、生活支援コーディネーターと生活支援等サービスの多様な提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場となる生活支援体制整備協議体（以下「協議体」という。）を設置する。

【構成】

- ・ 市域協議体：市SCの活動を組織的に補完
- ・ 区域協議体：区SCの活動を組織的に補完
- ・ 地域支え合い協議体：高齢者地域支え合い事業を推進

※ 高齢者地域支え合い事業とは

小学校区を基本とし、地域住民を主体としたネットワークを組織して取組む。
事務局機能は包括が担う。

見守り活動を基本に高齢者の活動・交流の場づくり、生活支援サービスへの繋ぎなど、共に支え合える地域づくりを目指す。



広島市第1層SC（市・区SC）の紹介

SCは様々な「人」と「人」、「思い」と「思い」をつないで、「地域の助け合い」のための「あったらいいな」「できたらいいな」の応援をしています！

中 区



わだ けんすけ
和田 謙介

「困ったときは和田に相談。」そう言ってもらえるように引き続き頑張ります。いつでも遠慮なく声をかけてください。



しまたに かいと
島谷 海渡

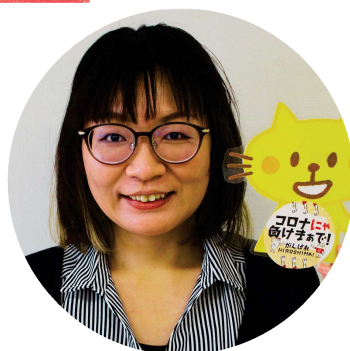
中区生活支援コーディネーター2年目になりました。今年も地域ファーストで頑張ります！引き続きよろしくお願いします。

東 区



はぎはら たかゆき
萩原 貴之

萩原・佐々木コンビは、4年目に突入です！引き続きよろしくお願いします！！



ささき えいこ
佐々木 詠子

「何かあったら佐々木に聞こう！」と思ってもらえるように、今年度もたくさん地域に出たいです。よろしくお願いします。

南 区



くろせ ゆうこ
黒瀬 裕子

『楽しかったと思ってもらえることを続けていくと、自ずと仲間が増えて、つながりが広がっていく』そんな思いを持ちながら、今年度も引き続き取組んでいきます。よろしくお願いします。



といたに のぞみ
樋谷 望

今年度より生活支援コーディネーターになりました。地域のみなさんと一緒に、地域づくりについて考えていければと思っています。どうぞよろしくお願いします！

西 区



よしむら しょうご
吉村 翔吾

4年目になりました。西区の各地区、それぞれに特色があり、どこも素敵だと感じています。今年もこの特色を活かせるようお力添えできればと思います！



ささき まお
佐々木舞音

今年度より生活支援コーディネーターになりました。地域のみなさまに教わりながら、楽しく地域づくりのお手伝いができればと思います。よろしくお願いします！



かくだ とおる
角田 徹

瀬をはやみ岩にせかるる滝川の〜♪
地域の出逢いのひとつひとつがいつかきっと結ばれますように♪
その笑顔のかけら探しをご一緒させていただければ嬉しいです。

安佐南区



おだ ひびき
尾田 響

いつもあたたかいパワーのおすそ分けをありがとうございます☆
みなさんと一緒に、地域のお宝や笑顔をつないでいきたいです🌸
今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

安佐北区



やました なおき
山下 直樹

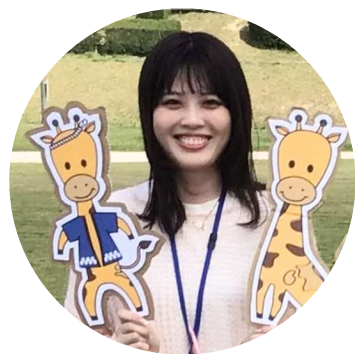
安佐北区は風情ある古民家や商店等がたくさん残っており、歴史好きな私にとっては、とても大好きな地域です。人と人のつながり、互いの顔が見え、誰もが誰かの力になれる地域づくりを、一步一步みなさまと進めていけるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



おか さり
岡 沙莉

小さな一步一步の積み重ねこそが未来に繋がっていくと信じて、みなさまと一緒に楽しく取組んでいきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

安芸区



つむら みさき
津村美咲希

今年度もみなさまと一緒にいろいろなことを頑張りたいと思っていますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします^_^



ありま まい
有馬 真衣

今年度も地域のみなさんのところへたくさん会いに行かせていただきたいと思います。今年度もよろしくお願いいたします！！

佐伯区



まえだ さやか
前田 彩花

2年目となりました。引き続き、佐伯区がよりよい地域となるよう、みなさまと一緒に考えていきたいと思えます。よろしくお願いいたします(*/^*)



しらかわ はるか
白川 遥佳

今年度より生活支援コーディネーターとなりました。これから佐伯区をどんどん推していきたいと思えます！どうぞよろしくお願いいたします。

市



いしい しずか
石井 静香

みなさんとの出会いやつながりを大切に、何事も楽しみながら、地域づくりに取組んでいきたいと思えます♪
今年度もよろしくお願いいたします！



かななか まお
川中 真央

生まれ育った大好きな広島市☆誰もが住み続けたいと思える優しく強い地域にみなさんと一緒に楽しく取組んでいきたいです。
今年度もよろしくお願いいたします！

目次

1

中区

- 地域×企業つながるサミット（交流会）
～顔のみえる・気軽に話せる関係性づくり～ 01
- こどもの居場所づくりの支援
～なかじまどんぐりBASEの取組～ 03

2

東区

- ～多世代多分野の交流の場～
「牛田新町ふれあい食堂」立ち上げ支援 05
- 「そうだ！困りごとなくし隊」立ち上げ支援
～町内会長のつぶやきから生活支援活動に至るまで～ 07

3

南区

- 区域協議体担当者会議の見直し
もやもやを解消し、協議体を推進するための勉強会の開催 09
- 多職種チームが総力を注いだ研修会！
～地域のネットワーク形成図の作成～ 11

4

西区

- 西区区域協議体
多世代交流の場づくり～担い手探し～④ 13
- 生活支援体制整備事業 四者協議 15
～今後の西区区域協議体についての検討と地域課題の聞き取り～

5

安佐南

- サロンとボランティアをつなぐスマホ講座 17
- 企業の地域貢献活動 19
～関わる人 みんなが“たのしい” “うれしい” つながりづくり～

安佐北区

- 安佐北区区域協議体「 ケア 」を世の光に！プロジェクト
介護講演会 地域でつながる介護のわ
～ひとりじゃないよ～実施の取組 21
- サロン研修会のねらいとプロセス
～人と人がつながる多様なサロン～ 23

安芸区

- 生活支援団体の困りごとを高校生が解決♪
～地域の団体と高校生の総合学習の時間を使った取組～ 25
- 生活支援サポーター養成講座
～みんなで意見を言い合いながら地域活動をするための
アンガーマネジメント～ 27

佐伯区

- 佐伯区お役立ち情報誌作成に向けて
～「あったらいいな」に一丸となって取り組んだ事例～ 29
- 佐伯区助け合いサミット
～たすけてと言い合える地域づくりのために～ 31

市

- 広島市における生活支援体制整備事業の推進
～一度立ち止まる時期～ 33
- 高齢者の暮らしを支える地域住民の支え合い活動の推進
～市民向け総合事業啓発研修会の開催～ 35



地域×企業つながるサミット（交流会）

～顔の見える・気軽に話せる関係性づくり～

事例概要

地域団体と協働して地域貢献活動を行いたい企業の要望を受け、地域団体と企業がつながりと相互理解を深める場として交流会を開催。活動の協力体制構築のための後方支援を行った。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 【活動に協力してほしい】【地域と協働して地域貢献活動をしたい】の思いを具体化、明確化。
- 思いを共有するための場づくりと、顔つなぎ後の活動調整等のフォロー。



取組の背景・課題

地域では、住民同士の交流の場づくりや見守り、助け合い活動など、地域活動を担う活動人材の不足が深刻化する一方で、現在の社会情勢を反映した公益的貢献意識の高まりを背景に、地域の一員として役割を共有できる関わりを望む企業が増えつつある。

中区社協へも区内の企業から「地域団体と協働して地域貢献となるような活動を行いたい。」と相談が入るようになった。

地域団体と企業の顔合わせや地域団体役員の集まる会議等で、企業からの申し出について相談を行うが、具体的な活動調整には至らなかった。

地域団体の「人材が不足しているから協力してほしい」、企業の「地域貢献として地域活動を手伝いたい」という思い。両者がつながるためにはこの思いをより深く掘り下げ、お互いを知る必要があると考えた。



取組の目的・ねらい

- 地域団体と企業が、相互理解を深めるための場の設定をする。
- 地域団体は企業の特色、強みを知り、団体の【要望】を求めるだけでなく、【必要とすること】を企業に知ってもらう。
- 企業は地域団体の活動を知り、企業の強みを活かした協力方法を考えるきっかけとする。
- 企業間のつながりも期待。他業種連携による地域貢献活動を考えるきっかけとなるのでは…。



行政等と企業とサミットの打合せ



- 

交流会 チラシ・申込書（裏面）

会社名	連絡先 TEL : FAX : mail :
役員	
役員	
役員	
企業の特徴	※参加の場合は ※充分記載する
協力可能な活動	※企業の特徴を添えた ※活動であると記載がし ※ます。

※記入いただいた情報から当日交流会で使用する名刺を事務局で作成いたします。

(表)

企業名：○○○○

グループマネージャ＝

○○ ○○

(裏)

協力可能な活動

- 施設見学・工場見学・設備見学等可
- 施設見学・工場見学・設備見学等可
- 施設見学・工場見学・設備見学等可
- 施設見学・工場見学・設備見学等可
- 施設見学・工場見学・設備見学等可

連絡先：○○○-○○○-○○○

- 上記の情報をもとにして名刺を作成
交流会の際に名刺交換を行った

- 地域団体からは企業のことを知る機会になった。
- 交流会を通して、こども食堂への食品提供やサロンへの講師派遣調整等なされた。
- 交流会後、中区社協を介したマッチングを想定していたが、名刺交換をしていたことにより、双方で直接やりとりをしている。

●参加者から今後も交流会を開催してほしいとの声を多数いただいております。取組の継続を検討中。

地域住民の生活支援や高齢者の見守り支え合い等、より地域に密着した形の活動について企業に理解を求め、実際の活動につながることを目指す。



実際に開催すると企業の方がとても積極的に地域団体と活動調整をされ、アンケートでは「交流の時間が足りない」という意見がとても多く、自分の認識を改める場になりました。

和田

こどもの居場所づくりの支援 ～なかじまどんぐり BASE の取組～

事例概要

社会問題となっているヤングケアラーの支援のため、民生委員が中心となってこどもの居場所（なかじまどんぐり BASE）づくり支援に取り組んだ。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 中島地区内外の様々な資源を紹介し、どんぐり BASE につなげる。
- 学生ボランティアの調整。
- 講師と団体の橋渡し役。



取組の背景・課題

令和 3 年度に中島地区と吉島学区の民児協で、当時注目され始めた「ヤングケアラー」について、広島県教育委員会のスクールソーシャルワーカーを講師に研修会が開催された。ヤングケアラーのことを知り、自分たちに何ができるかを考えるきっかけとなったが実際の活動には結びつかなかった。令和 5 年 3 月に中島地区民生委員から「ヤングケアラーの支援に取り組みたい」と相談が入った。中島地区にヤングケアラーがいるかは把握できていないが、民生委員としてヤングケアラーについて学び、できる支援をしたいという熱い想いを伺い、取組を開始することとなった。



取組の目的・ねらい

- 中島地区在住のヤングケアラーの関係団体と連携を図りながら支援を行う。
- 中島地区内外の社会資源をどんぐり BASE につなげ、地域団体とのパイプを作る。



中島地区民生委員のみなさん
こどもたちがホッとできる、そんな場所になる
ようあたたく見守っています



どんぐり BASE に参加した
元気いっぱいの子どもたち



内容・プロセス

- 令和5年 3月 中島地区民生委員から「ヤングケアラー支援に取り組みたい」と中区社協に相談が入る。地区民児協で有志を募って、プロジェクトチームを発足させる。
- 令和5年 4月 専門的な視点からアドバイスをいただきながら取り組むことが有効的だと思い、ヤングケアラー支援を研究している県立広島大学講師 手島洋氏にアドバイザーとして関わっていただくことにした。手島氏を講師に開催した勉強会を皮切りに、月1回のペースで勉強会を行う。勉強会の中で、ヤングケアラーが安心して話せる相手と居場所の重要性を学んだ。そこでヤングケアラーを支援の第一歩として、居場所づくりに取り組むことにした。
- 令和5年10月 中島地区内の住民や包括に声をかけ、ヤングケアラーについての勉強会を開く。
- 令和5年11月 活動をするにあたり、必要な資金確保として、さわやか福祉財団の「地域助け合い基金」の活用を提案。申請に関する支援を行う。
- 令和6年1月～ 開催場所の中島集会所前に大きなどんぐりの木があること、子どもたちが安心して過ごせる基地のような居場所にしたいとの思いで名称を「どんぐり BASE」とした。
「どんぐり BASE」の活動について、SC として日頃から関わりのある地域食堂や企業へ周知及び協力依頼をした。
- 令和6年5月 中島地区内の地域食堂から自分たちの取組を広げたいと相談を受ける。「どんぐり BASE」の取組を予告し、何らかの形で関わっていただくことを確認する。併せて、民生委員との顔つなぎを行った。
- 令和6年6月 ㈱カルビーより規格外品のお菓子の寄付の申し出を受ける。「どんぐり BASE」含め3団体へお菓子を配分した。
- 令和6年7月 子どもたちが、関わりやすく相談しやすい存在として、高校生や大学生のボランティアを募集することとし、中区社協ボランティア担当者と協力の上、ヤングボランティア育成事業と連携することにした。手島氏を講師に招き、ヤングボランティア事業の一環として、学生向けにヤングケアラーの講演会を開催した。
- 令和6年7月～ 夏休み期間中に「どんぐり BASE」を全5回実施。地域食堂の運営者にも来ていただき、子どもたちのおやつや弁当を作っていただいた。「どんぐり BASE」では宿題、ボードゲームで遊ぶ等子どもたちには思い思いに過ごしてもらった。また、民生委員の呼びかけで工作やスイカ割りなども行った。

現時点での到達点（結果・効果など）

- ヤングケアラー支援の第一歩として、子どもの居場所ができた。また、保護者からも居場所のニーズがあることを確認できた。
- 「どんぐり BASE」から地区社協や民生委員の活動の周知につながり、地区社協主催行事に親子で参加する人が増えた。
- 様々な社会資源をつなぎ合わせることで、互いの活動をより知ってもらうきっかけになった。

今後の展望など

- 令和7年度以降も活動ができるように引き続き支援を行う。
- 今回つながった団体等との関わりを絶やさないう、定期的に関わり続けるとともに、新たに協力していただける団体等との連携を模索する。



生活支援コーディネーターの思い

初めての活動で、子どもたちが参加してくれるか不安でしたが、ふたを開けてみれば1回あたり30人以上も来てくれて、嬉しい悲鳴を上げていました。
保護者からのニーズを確認できたこともあり、次年度以降も続けていけるように引き続き様々な支援を行っていきます。

島谷

「牛田新町ふれあい食堂」 立ち上げ支援

事例概要

住民から「こども食堂を立ち上げたい」との相談を受け、地域支えあい課・包括と連携して支援を行う。立ち上げに向けた話し合いの中で、こどもだけでなく、誰でも参加可能な「地域食堂」として立ち上げることを提案。こども、高齢者、子育て世代、障がいのある方など、様々な人が集う場になっている。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 専門機関、他団体とつなぐ橋渡し役
- 企業からの寄贈品の提供
- 広報活動の支援
- 会議の連絡調整、ファシリテーション
- 助成金申請の支援



取組の背景・課題

- 核家族化が進み、ご近所同士の人と人とのつながりも希薄化している。
- 高齢者など地域住民の「孤食」の課題。
- 地域行事の減少。
- テレビ CM 等で「こども食堂」「地域食堂」の情報を目にする機会は増えている。「自分もやってみたい」と思っても、地域活動立ち上げの経験がない人はそのノウハウがわからない。



こどもたちが遊べる広いスペースもあります！



取組の目的・ねらい

- こどもたちが親や先生以外の大人との「斜めの関係」をつくることできる。
- こどもたちがいろいろな人と一緒に食事することで、苦手なものも食べてみる機会になる。
- 誰でも参加可能な集いの場で、一緒に食事し、遊び、学ぶことで多世代多分野の交流が生まれることを目指す。
- 様々な人の「第3の居場所」となり得る場を設けることで、重層的支援体制整備事業の「参加支援」の推進を図る。
- 取組を継続実施していくことで、活動者(スタッフ)自身の生きがいづくり・健康増進にもつながる。



小さいお子様向けの席もあります。



介護施設の利用者さんと職員さんも来てくれています。



ボランティアさんに教わりながら、みんなで楽しく手話教室♪



内容・プロセス

- 令和6年3月 住民から「こども食堂を立ち上げたい」との相談。住民有志のグループと、包括・地域支えあい課地区担当保健師・SCで立ち上げに向けた話し合いを始める。こどものみならず、誰でも参加可能な交流の場にする事で意見がまとまる。
- 令和6年4月 グループ代表者とSCで地域のキーパーソンを訪問。活動を立ち上げたい旨を事前相談し、了承を得る。
NPO法人広島こども食堂支援センターに協力を依頼。こども食堂立ち上げに向け、具体的なアドバイスや補助金についての情報提供をしていただく。
- 令和6年5～6月 「牛田新町ふれあい食堂」と命名。団体名や役員等の役割分担を決める。他の自治体が作成している資料を基に、立ち上げに向けたプロセスを共有。7月にオープンすることが決定し、それぞれの担当者が保健所や保険会社への連絡等の準備を進める。団体規約等、必要書類作成のフォローを行う。
- 令和6年7月 オープン2週間前にリハーサルを実施。包括・地区担当保健師・SCも参加し、会場設営、受付、調理等の段取りを整理。
7月21日オープン。こどもから高齢者まで多世代の住民が集まり盛況。
- 令和6年8～9月 活動のさらなるPRのため、活動の様子を収めた写真中心の広報用資料を作成。スタッフ・関係者に提供し、広報活動を推進。
- 令和6年10月 もったいないをつなぐ取組として協定を締結している(株)セブン-イレブン・ジャパンからの寄贈物品の一部を提供。調理やこどもたちへのプレゼント等に活用してもらう。
- 令和6年11月 東区社協の広報紙「ふくしだより」で紹介。また、活動が軌道に乗ってきたため、これまでの振り返りと今後の進め方についての話し合いを提案。スタッフそれぞれの感想や思いを共有し合い、団結を深める。
関係者から、企業が実施する助成事業の情報提供あり。申請のための推薦書を作成に協力。
活動をより充実していくため、NPO法人広島こども食堂支援センターのネットワーク会議への参加を提案。会議に同行参加し、他団体とのネットワーク構築を促進。

現時点での到達点（結果・効果など）

- 乳幼児を連れた子育て世帯から小学生のグループ、障がい者やシニア世代など多世代多分野の集いの場となっている。
- こどもたちが様々な人と交流することで、「多様性」について学べる機会になっている。

今後の展望など

- 広く住民に知ってもらうための広報活動と、さらに魅力を高めていけるような情報提供の継続。



初めて会ったお兄さんとカラオケで意気投合！



生活支援コーディネーターの思い

活動者が主体的に実働し、多職種の専門職がそれぞれの立場でそれをフォローするという、よい協同ができています。

萩原

「そうだ！困りごとなくし隊」立ち上げ支援 ～町内会長のつぶやきから生活支援活動に至るまで～

事例概要

町内会長の「ちょっとした困りごとを町内で解決したい」というつぶやきから、生活支援団体「そうだ（惣田町内会の“惣田”をかけている）！困りごとなくし隊」立ち上げの経緯とその後を紹介する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域住民の困りごと抽出や、立ち上げ会議にて取組内容を町内会役員や包括等と一緒に検討。
- 他地域団体の運営や現状、活動内容について情報提供。 ● 検討会議時は次第の作成や司会を担当。
- 補助金や保険など運営に関する情報提供。



取組背景・課題

惣田町内会は、月1回のサロンや週1回のいきいき百歳体操サロン、一人暮らし高齢者の集いやスマホ教室など多様な集いの場の開催や、毎月広報紙を作成するなど、つながりを深めるために様々な活動をしている。

町内会長の「地域でちょっとした困りごとを解決したい」というつぶやきから、町内会役員や包括と一緒に生活支援活動について検討。



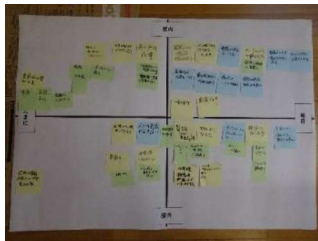
取組の目的・ねらい

- 互いに助け合うことにより、少しでも長く地域で生活できる惣田町内会を目指す。
- 将来の困りごとに備えて、生活支援活動の充実や、気軽に助け合える関係をつくる。



内容・プロセス

年 月		内 容
令和5年9月	サロン訪問①	他地域の生活支援団体紹介、生活支援ニーズの増加など地域の現状を説明し、生活支援活動への機運を高めるとともに、協議のきっかけづくりとなった。地域住民のニーズを実際に把握してみようということになり、次回のサロンでグループワークを行うことになった。
令和5年10月	サロン訪問②	サロンの中で「今実際に困っていること、今後困るであろうこと」をテーマにグループワークを実施。グループワーク前に、今後自分の身に起こり得る困りごとが想像できるよう、一人暮らし高齢者の増加、介護サービスの逼迫、ちょっとした困りごとの増加について説明。また、グループワークでは包括職員と進行役を務め、ニーズの抽出や、地域で生活支援活動があるとよいという意見を導いた。

			
		GWの様子	GWの内容
令和5年11月	検討会議①	グループワークの振り返り、 <u>生活支援団体立ち上げの決定</u> 。 <u>地域への活動周知方法や、活動範囲、内容について検討</u> 。他団体の状況を情報提供。	
令和6年1月	検討会議②	団体名称「 <u>そうだ！困りごとなくし隊</u> 」に決定、活動者募集チラシ内容の検討、配布。	
令和6年3月	検討会議③	活動内容、利用料、依頼の募集、活動開始時期、保険等について検討。	
令和6年5月	隊員向け説明会	隊員の特技や連絡方法について情報共有。	
令和6年6月	★★活動開始！！★★	令和6年度はお試し期間として、1世帯1回の無料キャンペーンを実施。	
令和6年6月	初活動！！	庭の狭い通路の草取り活動を実施。	
		  	
		活動の様子	
令和6年6月	定例会	司会を町内会長にバトンタッチし、後方支援にまわる。保険の検討、作業依頼の共有、会則・活動要項など書類の確認。保険や補助金について説明。	
令和6年8月	さわやか福祉財団「地域助け合い基金」助成決定、活動機材(草刈り機など)を購入。		
月1回定例会を実施し、依頼内容の共有や、今後の活動について検討中。			

現時点での到達点（結果・効果など）

- 活動開始から半年経った令和6年11月末現在で、活動は7件。チラシを回覧板で配布したり、町内会広報紙で活動を紹介、サロンなど集いの場にて広報活動を実施。
- 活動機材を購入し、機材の使い方研修会を活動者同士の交流会も兼ねて実施。

今後の展望など

- 活動の周知のため、広報活動等検討。
- 次年度からの本格運用に向けて、活動内容や料金体系等の検討。
- 引き続き定例会に出席し、検討や情報提供を行う。



定例会の様子



生活支援コーディネーターの思い

地域みなさんが積極的に意見を出してくださるため、団体名「そうだ！困りごとなくし隊」という素敵なネーミングを始め、よい取組につながっています。今後も定例会に参加しながら、活動に関する情報を提供する等、本格運用に向けて一緒に検討していきたいと思います。

佐々木

区域協議体担当者会議の見直し

もやもやを解消し、協議体を推進するための勉強会の開催

事例概要

毎月定例の包括、地域支えあい課、区社協の三者で開催する区域協議体担当者会議を、主体的に学ぶ場合、多分野、多組織との連携の場に変えていった事例。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 区域協議体担当者会議参画メンバーが抱えているもやもやを共有し、実情を把握する。
- 取り組まれていなかった問題、課題について、学習の機会をつくる。
- モデル的な好事例が他の圏域でも展開されるよう、活動内容を共有し発信する。



取組の背景・課題

令和元年12月から毎月定例で開催している「区域協議体担当者会議」は、もともとあった「支え合い担当者会議」が、「区域協議体担当者会議」に置き変わったもので、当初は各包括に配属された第2層 SC と、第1層 SC、地域支えあい課担当者が、地域における様々な情報や課題を共有し、連携して課題解決に向けての知恵を出し合う話し合いの場、第1層、第2層の協議体を推進する原動力となる場を理想としていた。

しかし、年数を重ねるにつれ、各包括圏域での活動を報告するだけの事務的な場になっていったことから、意見交換や勉強会を取り入れたスキルアップの場となるよう、会議の在り方や内容を見直していく必要性を強く感じていた。

市域での勉強会に参加するのもよいが、今年度は、地域支えあい課担当職員 2 名、区社協主任や担当 SC の異動など参画メンバーに大幅な変更があったことから、まずは区域の担当者会議の中で勉強会を開催し、認識を合わせていきたい思いがあった。



取組の目的・ねらい

- 支え合い事業ほか、取組内容の共有や意見交換のできる場の再設置。
- 会議開催は必要最低限とし、包摂的な話し合いの場に改善していく。
- 包括、地域支えあい課、区社協ほか協議体推進に関わる専門職の意識合わせを行い、それぞれの役割を再確認する。
- 専門的知識、技術を地域に提供し、実践に結びつけることを意識した会議にしていく。
- 各種制度の縦割りを超えて、地域の資源を広くとらえて、新たな社会資源の把握や事業の理解を深めることで、様々な主体の動きを活用した地域づくりを進めやすくしていく。



内容・プロセス

●令和6年3月 令和5年度第11回南区区域協議体担当学会議開催

令和6年度における区域協議体の検討事項を、①「メンバー」②「テーマ」③「1.5 層協議体」④「2層協議体」⑤「担当学会議」の5項目に分けて、それぞれの現状・課題・改善案を一覧表にて見える化。

⑤の担当学会議から改善を始め、まずは毎月のオンライン開催をやめて、対面方式での勉強会を取り入れていくこととした。

●令和6年5月 令和6年度第2回南区区域協議体担当学会議開催

「ひろしまLMOについて」の勉強会を実施。

講師：広島市コミュニティ再生課主事 広島市社協地域連携支援担当主事

もやもや

- ・LMO における包括の立ち位置がわからない☹
- ・LMO があれば区域協議体は必要ないのでは？
- ・LMO 事業担当者の顔がわからない☹

●令和6年6月 令和6年度第3回南区区域協議体担当学会議開催

「広島市における生活支援体制整備事業と協議体について」の勉強会を実施。

講師：広島市健康福祉局高齢福祉課 主事

もやもや

- ・事業そのものの見直しが必要なのでは？
- ・支え合い事業と第2層 SC との役割の違いや動き方がわからない☹

●令和6年10月 令和6年度第5回南区区域協議体担当学会議開催

「ひろしま型地域貢献企業認定制度について」の勉強会を実施。

講師：広島市コミュニティ再生課 主査

もやもや

- ・地域貢献を希望する企業と地域をどうマッチングするか。



毎年物品寄贈をしてくださる企業。町内会行事のお手伝いもされていますが、もっとつながりたい思ひも…。

現時点での到達点（結果・効果など）

- 勉強会では、参加する専門職全員の発言量が圧倒的に増え、活気づいた。
- 勉強会の講師を事業担当者に依頼したことで、顔がわかり、連絡がとりやすくなった。
- 今更聞けないことも含めて、少しずつもやもやが解消されている。

今後の展望など

- 令和7年1月には住民主体型サービスを実施している地区社協の交流会を開催予定。広島市高齢福祉課職員による事業趣旨や概要の確認ほか、実際の活動者からリアルな事例や活動への思いを聞くことで学びを深める。
- 単なる講義や情報提供にとどめず、現地見学なども取り込んだ勉強会も開催していきたい。

生活支援コーディネーターの思い

誰よりも、もやもやしているのは私自身で、何かしないといけないという思いばかりが先走っていますが、右往左往した経験を協議体推進の原動力に変えていきたいと感じています。

黒瀬



多職種チームが総力を注いだ研修会！ ～地域のネットワーク形成図の作成～

事例概要

多職種（地域支えあい課、地域起こし推進課、包括、区社協）で協同し、地域のネットワーク形成図を作成した。月1回ワーキング会議を行い情報共有することで、地域の強みや課題に気づくことができた取組。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- ワーキング会議に参加し、情報提供・共有。
- 地域課題に対し、地域と関係機関と一緒に検討していく。

取組の背景・課題

「地域共生社会」の実現に向け、重層的ネットワークの構築と、地域の支え合いコーディネート機能の強化を目的とした広島県社協主催の『地域共生社会実現のための地域の支え合いコーディネート機能強化研修』は、包括的な支援体制の整備について検討するため、関係機関でチームを組んで参加することが条件となっている。

研修の参加について、区社協にも地域支えあい課の重層支援担当者から声がかかり、SCとして関係機関と一緒に包括的な支援体制づくりについて学びたいと思い、区社協からはSCが参加することとなった。

南区は、地域支えあい課、地域起こし推進課、包括・区社協がチームを組み参加した。



全9回ワーキングを実施！
わいわい楽しいワーキングでした♪

取組の目的・ねらい

- 多職種の役割を理解する。
- 地域・専門職が協同して作業し、信頼関係を構築する。
- 地域の強みや弱み、課題を把握し、「あったらいいな」を共有し、可視化する。

内容・プロセス

【自治会セルフチェックシート作成】

○令和6年7月4日：これまでの地域福祉の振り返り。自治体の方針をチーム内で共通理解する。

【地域の協同力アセスメントシート作成】

○令和6年8月5日：地域の既存の組織・活動・ネットワーク（協議の場）が、各圏域（自治会・町内会・小学校区・中学校区）で、どのように整備されているかを確認。

○令和6年8月15日：地域の強みや弱みを把握、今後支援すべき課題、展望を話し合う。



○令和6年9月18日:専門職間で把握している地域の取組を共有。

- 12

事例概要

令和2年度からスタートし、テーマを「多世代交流の場づくり～担い手探し～」としている西区区域協議体。令和6年度は、コアメンバー（地域福祉推進委員、包括、地域支えあい課、西区社協）と一緒に学びを深めると共に、5年間の振り返りと今後の協議体の進め方やテーマについて検討していく。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- サブテーマである「担い手探し」についても焦点を当て、協議体を進める。
- まず、包括、地域支えあい課、西区社協の三者で話し合い、方向性を確認する。その後、18地区社協毎に三者協議のメンバーにそれぞれの地域福祉推進委員を加えた四者協議を開催し、協議体の振り返りと今後の協議体の進め方やテーマについて検討する場を設ける。



取組の背景・課題

これまで5年間にわたり開催をしてきた西区区域協議体は、「多世代交流の場作り～担い手探し～」のテーマで固定したコアメンバーと協議をしてきたが、地域住民から挙がる地域課題・福祉課題は他にもある。また、各地域によって困っていることや課題も違う。そのため、現在のテーマ「多世代交流の場づくり～担い手探し～」を進めながらも、改めてこれまでの西区区域協議体について各18地区で協議の場を設け、振り返りと今後の進め方やテーマについて検討していく。



地域に出向いての四者協議の様子



取組の目的・ねらい

- 西区区域協議体のサブテーマである「担い手探し」について焦点を当て、コアメンバーと学びの場を設ける。
- 四者協議を開催し、協議体の振り返りと今後の協議体の進め方やテーマについて検討する。



内容・プロセス

令和5年	11月	ワーキングの開催（※包括、地域支えあい課、区社協）
	12月	第8回西区区域協議体開催
令和6年	1月～2月	三者協議の実施（※）
	2月	第9回西区区域協議体の講師検討協議
	3月	第9回西区区域協議体講師の比治山大学中村准教授と打ち合わせ
	5月	ワーキングの開催（※）
	6月	第9回西区区域協議体開催
	11月～12月	四者協議の実施（地域福祉推進委員、三者協議メンバー）
	12月	ワーキングの開催（※）
		第10回西区区域協議体の開催（予定）



第9回の協議体は、地区社協会長等もご出席いただきました。

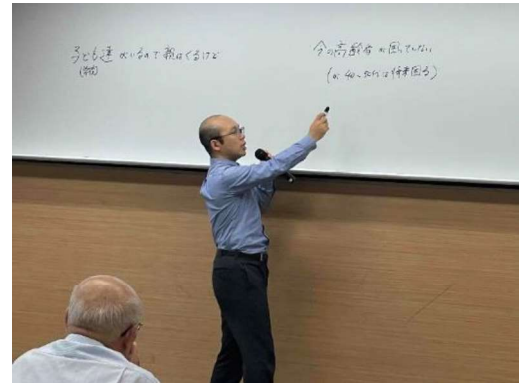


【第 8 回区域協議体】

それぞれの多世代交流の取組を共有しました。

【第 9 回西区区域協議体】

サブテーマである「担い手探し」に焦点を当て、比治山大学の中村孝准教授に「データと心理学を活かした新たな地域活動の担い手確保のポイント」と題して講演をいただく。



【第 9 回区域協議体】

中村先生にご講演いただきました！！

【三者協議】

西区内の6包括、地域支えあい課、区社協で開催。各地区の情報共有と今後の西区区域協議体について協議をする。

【四者協議】

三者協議のメンバーに加え、18地区それぞれの地域福祉推進委員と一緒に、多世代交流の場やイベント、地域の課題、今後の西区区域協議体について協議を行った。



【四者協議】

各地区を訪問し、状況や課題について協議しました

現時点での到達点（結果・効果など）

- 西区全体で開催していた区域協議体について、各小学校区個々の地域福祉推進委員の意見を聞く場を設けることができた。
- 四者協議にて西区 18 地区の地域課題・生活課題についてコアメンバーと共有ができた。

今後の展望など

- 第10回の西区区域協議体で、コアメンバーと協議体の成果と課題について協議する。
- 今後の西区区域協議体のあり方(メンバー構成や開催方法)についてコアメンバーと協議する。



生活支援コーディネーターの思い

令和 2 年度から始まった今の西区区域協議体ですが、5 年の月日経ち改めて協議体の在り方や、メンバー構成について協議の必要性を感じました。これをコアメンバーの皆さんと共有し、新たによりよい協議体が開催できればと思っています。

吉村

生活支援体制整備事業 四者協議

～今後の西区区域協議体についての検討と地域課題の聞き取り～

事例概要

これまでの区域協議体の振り返りと今後の区域協議体の在り方について地域福祉推進委員、包括、地域支援あい課と一緒に検討するため、四者協議を実施することとした。

四者協議について振り返る第10回西区区域協議体や地域支援あい課との協議は令和6年12月に開催予定であるため四者協議を実施するまでのプロセスとその内容を報告する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- これまでの区域協議体を地域福祉推進委員や包括、地域支援あい課と一緒に振り返る。
- 四者協議で挙がった地域課題・生活課題を取りまとめ、今後の区域協議体の動きを検討する。

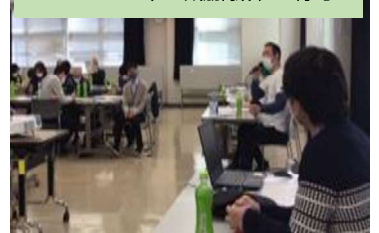


取組の背景・課題

西区社協では、令和2年度より区域協議体を地域福祉推進委員連絡会と兼ねて開催しており、18地区社協の地域福祉推進委員と6包括、地域支援あい課が参加している。SCとしては、これまで区域協議体のすすめ方に関して、テーマ「多世代交流の場づくり～担い手探し～」の難しさや会議の規模などに悩みながら運営していた。

そのため、5年間の区切りとして区域協議体の振り返りを行う機会を設けると同時に、今後の区域協議体について検討することとした。各地区を訪問し、地域福祉推進委員、包括、地域支援あい課、区社協で四者協議を行うことにした。

これまでの区域協議体の様子



取組の目的・ねらい

- 区域協議体の今後について、四者協議で出た意見を参考にしながら検討していく。
- 四者協議で挙がった各地区の現状や課題を共有し、地域と専門職間の共通認識を図る。



内容・プロセス

令和5年12月 第8回西区区域協議体にて、地域福祉推進委員、包括、地域支援あい課、区社協の四者で今後の区域協議体の運営について協議を行いたいと提案。

四者協議を行うにあたって、事前に各地区社協域での取組の方向性について、包括と地域支援あい課と区社協の三者で確認する場を設けた。



四者協議について、第8回西区区域協議体にて提案。

令和6年3月～7月 区社協運営委員会や地区社協会長会議などで地区社協会長に向けて、四者協議を行うことを伝え、合意形成を図る。

令和6年8月～10月 各地域福祉推進委員、包括、地域支えあい課と四者協議の日程調整を行う。

令和6年10月～11月 四者協議実施。内容は、令和2年度から現在までの西区区域協議体を振り返り、各地区のこどもから大人まで参加できる多世代交流の場づくりの取組、地域課題・生活課題の聞き取り。最後に、次年度以降の西区区域協議体についての意見を聴取した。

令和6年11月 四者協議で挙げた意見の取りまとめを行い、課題をカテゴリ一別に分類した。

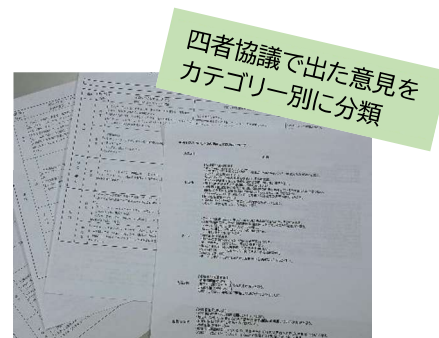
高齢者地域支えあい事業担当者部会(※包括、地域支えあい課、区社協の三者で包括が事務局となる高齢者地域支えあい事業の情報共有を行う会議)にて、包括と地域支えあい課と四者協議で挙げた課題や意見を共有した。また、四者協議について第10回西区区域協議体で振り返ることを提案し、了承を得た。

今後の予定

令和6年12月に開催予定の第10回西区区域協議体にて、四者協議の振り返りを実施する。また、今後の西区区域協議体について、包括、地域支えあい課、区社協で話し合いを進めていく。



各地区の四者協議の様子



現時点での到達点（結果・効果など）

- 四者協議を通して、地域福祉推進委員、包括、地域支えあい課から今後の区域協議体に関する意見を挙げることができた。
- 各地区の現状や課題を四者協議で把握することができ、地域と専門職間の共通認識を図るきっかけとなった。

今後の展望など

- 四者協議で挙げた今後の西区区域協議体への意見を参考に包括、地域支えあい課と検討していく。
- 四者協議を通して把握できた地域課題・生活課題についても、引き続き話し合いを行っていく。



生活支援コーディネーターの思い

四者協議を通して、これまでの区域協議体に対する意見を聞くことができたと同時に、各地域の課題を知ることができました。今後も、住み慣れた地域で暮らし続けられることの実現に向けた区域協議体を目指して運営していきたいです。

また、それぞれの地域課題・生活課題にも目を向けた働きかけができるよう取り組みたいと思います。

佐々木

サロンとボランティアをつなぐスマホ講座

事例概要

「スマホに関心があるが、周りに詳しい人がいない。どうすれば・・・」と思われるサロンとボランティアをしたいと思っている学生がつながった事例を紹介。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- スマホや SNS に関心があるサロンに向けて、スマホ講座の開催。
- 地域で何かしたいと思っている学生に活躍の場を提供。
- 取組の情報を他のサロンや地区社協に発信。



取組の背景・課題

サロンの世話人より、サロン参加者から「スマホを持っているが使い方がよく分からない」、「スマホを使いこなせるようになりたい」という声を聞くことが増えてきたためサロン活動に取り入れたいが、何から始めたらよいか、どうしたらよいか分からないという相談を受けた。

SCとして何かよい方法がないかと考えていたところ、区社協ボランティアコーディネーター(以下:VCO)より大学生からボランティア活動をしたいという相談が入っていることを聞いた。大学生がサロン参加者にスマホの使い方を教える取組ができないかと考え、SCとVCOでスマホ講座を企画することとした。



取組の目的・ねらい

- サロンの参加者がスマホについて知る機会の提供。
- 何かをやってみたいと思っている学生が気軽に参加できるボランティアの提案。
- 既存の場を活用した多世代交流の場の構築。



内容・プロセス

スマホ講座についてSCとVCOで活動調整方法やサポート体制について協議。

以下の内容で進めていくこととした。

- サロン世話人から相談が入れば、VCOが大学生にボランティアを依頼し、日程の調整。
- サロン当日にスマホについて聞きたいこと(LINE、電話、写真、メール等)の簡単なアンケートを開始時に配付し、サロン参加者2名に対し、学生ボランティア1名で対応する。
- 包括職員、VCO、SCもサポーターとして参加する。

- 各地区のサロンでスマホ講座を開催。スマホ講座をきっかけに多世代交流の場となった。
サロン参加者と参加した学生ボランティアからは好評であった。

～サロン参加者の声～

- ・あまり来ない男性が来てくれた！
- ・孫や携帯ショップでは気を遣って聞けないことをゆっくりと聞けた。
- ・グループ LINE の作り方が分かったので、早速作ってみた。連絡に役立ちそう！
- ・学生とふれあえて楽しかった。
- ・家でもやってみよう。

～学生ボランティアの声～

- ・地域に高齢者が集まるサロンがあることを知った。
- ・自分が普段していることを伝えることでも喜んでもらえて嬉しかった。
- ・このようなことでもよければまた参加したい。
- ・自分の地元でも何かしてみようかな・・・。

- 夏休みの高校生を対象にしたヤングボランティア養成講座の実践編でスマホ講座を活用。地域に出向きボランティアについて経験する機会とした。

たくさんの高校生たちが
地域を知るきっかけになりました



現時点での到達点（結果・効果など）

- サロン参加者のスマホ習熟度がそれぞれ違うため、一斉に行う講義形態ではなく、テーマ別やフリートークを中心に開催したことで、会場の至るところで会話が弾み、多世代交流の場となった。
- 講座受講後、自宅でもスマホに触れる機会が増えたことやサロン内での共通の会話になっているなどの声を聞き、サロン参加者の新たなコミュニケーションツールや趣味の一つとなった。
- 大学生については、取組を通じて楽しい、喜んでもらえて嬉しいとの思いが生まれ、継続的な参加につながった。

今後の展望など

- スマホ講座を通じて、今後サロン内でスマホなどが得意な方が周りに伝えることができていけばいい。パソコンが得意、教えるのが好きという男性にも参加してもらえるかも。
- 緊急連絡網に LINE を活用することで、気になる方の確認がスムーズになったらいいな。
- 高校生、大学生にとって地域活動を知る機会となり、将来のふるさとへの想いの醸成、助け合い活動などの担い手になるきっかけになればいいな。

生活支援コーディネーターの思い

今回の取組を企画する上で原動力となったのは、自身が関わった生活にお困りごとのあった相談者からの「得意なことで地域に貢献したい」という声をつないだ経験からでした。これからも常に相談支援、参加支援、地域づくりの視点を持って、「あったらいいな」をみなさんと一緒に考えていきたいです。

角田



参加費 無料 あつまれ！チャレンジ！夏のボランティア体験

ボランティア活動に興味があるけれど「何をしたらいいの？」と悩んでいるあなた！夏の第一歩としてボランティアの魅力を学びボランティア体験をしてみませんか？

第1回目 8月2日（金） 13:00～15:00
場所：安佐南区総合福祉センター 5F ボランティア研修室
①レクリエーション 【講師】 山野 節子 氏
②ボランティア講演 【講師】 永中 寛成 氏

第2回目 8月5日（月） 13:30～14:30
場所：大町集会所（安佐南区大町東3-7-25-6）
①ボランティア体験（実践）
スマホの簡単な使い方を高齢者に教えよう！

第3回目 8月8日（木） 13:00～14:30
場所：安佐南区総合福祉センター 6F 大会議室1
①みんなでボランティア体験のふりかえり
②ボランティア活動・ボランティアセンター等紹介

▶対象者 概ね15歳から25歳までのボランティア活動に関心のある方
▶定員 20名（全3回参加可能な方を優先させていただきます）
▶持参物 なし（動きやすい服装でお願いします）

〈お問合せ〉 ☎731-0194
広島市安佐南区中須1-38-13
安佐南区総合福祉センター5階
広島市安佐南区社会福祉協議会
TEL：831-5011 FAX：831-5013

企業の地域貢献活動

～関わる人 みんなが“たのしい”“うれしい”つながりづくり～

事例概要

区内外の企業による「地域に貢献したい」という思いを地域とつないだこと、会議や広報紙を通じ、それらの実践例を紹介し横展開していることについての経過報告。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域の困りごとや活動と「地域に貢献したい」という企業の思いをつなぐ。
- 地域と企業が協同し取り組んだ実践例の紹介。
- 他地域での活動への展開。



取組の背景・課題

日頃、学区社協をはじめとする各種地域団体より、活動者不足やサロンなどのテーマに困っているというような話を耳にすることがある。一方で、企業からは「地域に貢献がしたい！けれど、どのように進めたらいいだろうか…」という相談が区社協に入っており、企業側が取り組める活動として、地域行事等を従業員が手伝うものや、企業の特性や強みを活かした企画・講座などを提案されていた。

これらについてSCを含めた地域担当職員とボランティア担当職員によりマッチングを行っていった。

地域行事での
電動カート試乗体験



サロンでの美容教室



取組の目的・ねらい

- 企業従業員と地域とのつながりをつくること。
- 企業従業員に地域活動を知っていただくこと。
- 地域にとって相談・連携できる先を広げていくこと。
- 将来的に、企業所在地や従業員が居住する地域で地域活動への参画につながるようなきっかけづくりをすること。



地域の一斉清掃へ参加





内容・プロセス

地域との連携にむけて

1

企業がある圏域の学区社協ブロック会議で紹介。また、「地域のみなさんと何かする前に地域のことを知りたい!」という企業の方と一緒に百歳体操に参加!



学区内の町内会と一緒に衣食住をテーマに講座と店内ツアーを実施! 今年度は防災のテーマで開催! その他地域のニーズに合わせた取組を展開中



2

地域貢献の相談から地元の学区社協へつなぎ。清掃活動や登下校見守り、工作教室の取組を実施。



企業の強みを活かし、ベンチのペンキ塗りイベントを協同企画・運営



今年度のイベント開催に向けた会議へ区社協も参加し、調整役を担う。

取組の紹介・横展開



／(令和6年8月号)掲載、ひろしまえとこ通信



企業の取組や地域と協同して行った活動を広報紙や会議、イベントで紹介し、他地域への展開へと働きかけ。

／ボランティアまつりで紹介パネル展示／



現時点での到達点 (結果・効果など)

- 関わっていただいた企業従業員の方々に地域活動を知っていただけた。また、地域住民にとっても企業が身近な存在となり、双方が顔の見える関係を築ききっかけとなっている。
- 取組紹介により、他地域でも身近な企業と協同する工夫へとつながっている。活動を考えておられる企業へ多様なかたちの関わり方があることを知っていただき、地域とつながるきっかけとなっている。

今後の展望など

- 今後、商工会などともより連携を深め、地域の具体的な活動と企業の思いをつなぎ、継続的な活動となるよう関わっていききたい。
- 多様な参画者へと輪が広がるよう展開していききたい。



生活支援コーディネーターの思い

いろいろな取組を通じ、関わる方々の輪が広がっています。地域住民、企業の方々双方にとって「よかった」と思えるつながりを紡いでいけたらと思います。

私たち自身が多様な方々とつながり、参画のきっかけをみなさんと一緒に考えさせていただければ幸いです。

尾田

安佐北区社会福祉協議会

安佐北区区域協議体「ケア」を世の光に！プロジェクト 介護講演会 地域でつながる介護のわ ～ひとりじゃないよ～ 実施の取組

事例概要

「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに据え、「ケア」を世の光に！プロジェクトと題し、令和5年度から令和7年度にかけて継続的に事業を実施する予定である。令和6年度は同プロジェクトを実施していくための取組の一つとして、広く区民を対象として啓発講演会を実施した。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 区域協議体参画メンバーと一緒に、対象となる方へ情報を届けるにはどうしたらよいか、実施に向けた企画、調整を行い、実行に向けて準備を進める。



取組の背景・課題

- 令和3年4月に亀山地域で発生した老々介護夫婦の事件を契機として、令和3年度から安佐北区区域協議体において、「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに、社会に向けて正しい情報に基づく介護の啓発を目指していきながら、そのための前提条件として「老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくり」に向けた取組について検討してきた。
- 令和5年度に安佐北区内で在宅介護をしている方を参加対象とした講演会及び個別相談会・座談会を初開催した結果、包括や地域の団体が主催する「認知症の人と家族の会」と継続してつながった方もいた。介護講演会に参加し情報を得ただけでなく、地域とつながることができた。しかし、講演会の参加者自体が少なかったことから、運営面の見直しを図った。参加対象者が限定されていたこと、遠方で開催場所まで行けない方がいたことによる参加者が少なかったことを鑑みて、令和6年度は、参加対象を安佐北区在住で介護に興味がある方とし、開催形式をメイン会場の講演・体験談をサテライト会場と個人オンラインで視聴できる「集合とオンラインを併用したハイブリット方式」を採用した。



取組の目的・ねらい

- 老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくりに向けた土台（環境）づくりを進めていくための介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の開催。

区域協議体の様子



各関係機関先、協議体参画団体によるチラシの配布やHP掲載等の広報活動

介護講演会の開催形式や広報の在り方をグループワークにて意見抽出中



介護講演会のチラシ



内容・プロセス

1 取組の経過 ※令和6年度の主な経過を掲載

月日	主な出来事	内容や決定事項等
5月21日	令和6年度第1回区域協議体	区域協議体やプロジェクトの理念の情報共有。取組の方向性・焦点の情報共有。介護講演会の開催日決定。
8月20日	令和6年度第2回区域協議体	介護講演会スケジュールの確認と各参画団体が担える役割の確認。メイン会場(安佐北区総合福祉センター)、サテライト会場(安佐公民館、白木公民館)の定員、会場設営、レイアウト、音声リハーサル準備物等の確認。
10月22日	令和6年度第3回区域協議体	講演会当日のスケジュール及び役割の最終確認。
11月16日	介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の開催	基調講演、介護体験談の発表、福祉用具体験コーナー、情報コーナー等の介護講演会実施。

2 介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の内容等について

●内 容

◇基調講演

「笑う門にはいい介護～虐待が抱擁が変わるとき～」講師による辛い介護生活を「笑い」のある生活へと変えた話。「助けて」と言える大切さ、どんな支援の場があるか。

◇介護の体験談

介護経験者2名による介護に至った経緯、介護の苦労、悩み、介護を経験して伝えたいことを発表。

◇福祉用具体験コーナー

在宅介護生活に必要な福祉用具の展示・体験。

◇情報コーナー

介護に関わる支援団体等のチラシやパンフレットを紹介。

●対 象

安佐北区在住で介護に興味がある方。

メイン・サテライト会場に分かれて実施。



基調講演の様子(メイン会場)

地域で

講師:笑う門にはいい介護の会
代表 中村 学 氏

安佐公民館

白木公民館

福祉用具体験コーナー

会場内ブースにて自由に閲覧。

●ねらい

介護が必要になった時にどのような心構えでいけばいいのか、1人で抱え込まないように地域に助けを求めることをテーマに、重苦しくならないように面白く語れる講師の講演や在宅介護生活で使用する福祉用具の体験を目玉として、介護を身近によりポジティブなイメージとして捉えてもらう。そういった方達を地域に増やしていくことで、介護を必要としている方と介護者を孤立しない・させない地域が作られるのではないかと考え、区域協議体参画メンバーと一緒に企画、調整を行い、準備を進めた。

現時点での到達点 (結果・効果など)

- 今年、老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくりに向けて、上記のねらいの他に、まずは参加者を増やし、沢山の方への啓発を目的に、ハイブリット形式で開催した。その結果、介護に興味のある方やメイン会場にアクセスしづらい方、忙しい現役介護者等に、介護に関する情報を提供できた。前回よりも確実に参加者を増やし、地域づくりに向けた種を蒔けたのではないと思う。前回は、介護講演会を機に地域の団体とつながる方もおられたため、今回も期待したい。

今後の展望など

- 今後の展望として、更に一般向けの啓発イベントに特化し、介護に対する正しい情報を届け、「助けて」のサインや声をかけ合い、気軽に相談できるような地域に向けた土台(環境)づくりを進めていきたい。



生活支援コーディネーターの思い

介護講演会の2回目が終わりました。今回は、参加対象者や開催形式を拡大した結果、より多くの方々に向けて、正しい介護の情報や心構え等が届けられたのではないかと思います。「当事者と介護者が孤立しない・させない地域づくり」に向けて、介護講演会として開催するにはどうしたらよいか、実施に向けた企画内容を協議体参画団体のみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

山下

サロン研修会のねらいとプロセス ～人と人がつながる多様なサロン～

事例概要

多様なサロンとの関わりから、サロン研修会の企画・実施までのプロセス。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 活動が多様であるサロンに、参加者との「つながり」・地域との「つながり」の大切さについて理解を深め、意識いただくよう働きかける。
- 個別の相談からサロンへ、高齢者に限らない参加希望の方の受け入れについて調整。



取組の背景・課題

今年度、運営の補助金をきっかけにスポーツやそば打ちなど趣味活動を中心としたサロンとの関わりが増加した。補助金申請の相談を受けた際、代表者が包括や地区社協などを知らないこともあった。一方、スポーツや趣味活動が好きな方々が定期的に集まる場になっていること、みんなが運営の企画に携わるなど参加・交流型の活動であることが分かった。しかしながら、サロンの目的である「地域で見守り、助け合う、つながりづくりの場」という意識が低いと感じた。



取組の目的・ねらい

- 参加されている方との「つながり」、地域との「つながり」を意識して、活動してほしい。
- 活動を楽しむことを通して、人と人がつながる(知り合う)ことができる。地域におけるサロンの意義を伝えることで、地域にとって必要な活動であることを認識してもらいたい。

⇒重層的支援体制整備の参加支援も見据えて、上記のねらいをもってサロン研修会を実施することとした。



内容・プロセス

- 講師との打合せで目的を共有。
 - ・重苦しくなく、楽しく「つながり」について伝える。
 - ・地域のサロンが10年、20年継続してやってきたことに対して、素晴らしいことであるという評価をしっかりと伝える。
 - ・参加された方には、サロン活動をこれまでやってきてよかった、これからも頑張ろうという気持ちになってもらいたい。サロンの自慢大会をすると盛り上がり、今後のモチベーションアップにもなる。



●研修会は盛況！

講演 「つながる喜び・つなげる喜び～アナタは、どんな地域(まち)に暮らしたいですか～」

講師 酒井 保 氏(ご近所福祉クリエーター)

人が「老いる」こと、健康と社会参加の関係、サロンの意義について、ユーモアを交え楽しくお話いただいた。最後にはサロンの自慢大会と称して、手が挙がった4つのサロンから「うちのサロン、ここが自慢！」を紹介いただいた。



「うちのサロン、ここが自慢！」

～参加者からの声～

- ・自分たちの活動が少しでも地域の方に役立っていることを認識でき、自信を持って続けていく元気が出ました。
- ・介護予防は社会参加ということがよくわかりました。
- ・活動の中で「つながり」ができています。

現時点での到達点（結果・効果など）

- サロン活動が高齢者にとってどのような効果があるのか具体的に仕組みやエビデンスを知ることで、活動の継続へのモチベーションアップにつながった。
- サロンそのものの内容も大切だが、「今日行くところ」「今日の用事」があることが高齢者にとっては大切であり、人と人とのつながりをつくることにサロンの意義があることを理解いただくことができた。

～ボランティア相談からサロン活動へのコーディネート事例～

就労・就学されていない方の親御さんから、本人が引きこもり気味のためどうにか外に出られるようなボランティア活動を探している、週1回程度活動をしたい。アルバイトなども数日しか続かないため、まずは通える場所を探している、という相談があった。

⇒過去に部活で取り組んでいたスポーツのサロンがあったため、ここなら通えるかもしれない！と思い、そのサロンを紹介。結果、見学ののち活動参加へつながった。

多様な活動のサロンと関わりができたことで、活動先を紹介できた。
多様な方が地域におり、サロンが居場所となることを実感していただく機会となったように思う。



これまで高齢者を中心に活動していたが、社協と関わることで、これまで接点のなかった方にも参加してもらうことができた。活動に関心がある人は大歓迎。



今後の展望など

- 引き続き、活動の継続のモチベーションアップにつながる研修会を実施するなどサロン活動を応援していく。
- 地域には多様な方がおり、重層的支援体制整備の観点からもあらゆる方の居場所となれるような働きかけを行っていく。



生活支援コーディネーターの思い

今回は研修会を通して意図を伝えるという方法を選びましたが、研修会のみで考え方を浸透させることはもちろん難しいと思います。継続的に伝え続けること、直接伝えていくことも大切だと感じています。地域になくてはならないサロン活動の後押しを、これからもしっかり取り組んでいきたいです。

岡

生活支援団体の困りごとを高校生が解決🎵

～地域の団体と高校生の総合学習の時間を使った取組～

事例概要

生活支援団体の広報活動について、安芸区内にある高校生との取組。区社協と高校が協働し、高校生に向け地域福祉の学習を行った。取組によって、高校生が地域に出て活動をし、広報活動の案を考えることとなった。また、そこで初めて高校生が地域に生活支援団体があることを知り、地域に出て団体の活動に参加するようになった。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 高校生と地域のニーズをつなぎ合わせる。
- 高校生の目線に合わせ伝え方を工夫し、地域について知ってもらうよう努めた。



取組の背景・課題

安芸区内の生活支援団体から広報活動と担い手不足に課題を感じているという声が多くあがった。「新聞折り込みで広報しても担い手が集まらず、他の方法が思い浮かばない。」「できる人がいない。」など感じている課題は様々。生活支援団体のマンパワー不足もあり、新しいことをこれから進めていくことは難しいと感じた。課題解決に向けて、若年層の力を取り入れることができないかと考えていたところ、地域起こし推進課から安芸区内の高等学校で地域活動に力を入れていることを教えてもらい、生活支援団体が抱えている課題を高校生の力で一緒に考えてもらうことはできないか学校を訪問した。



取組の目的・ねらい

- 生活支援団体の方の困りごととして多く挙がっている広報活動について、高校生の持っている新しい視点を取り入れ、困りごと解決に向け動いていく。
- 生活支援団体が地域に存在していることを高校生にもまずは知ってもらい、必要性を感じ、存続に向けて力を貸してもらう。



内容・プロセス

教頭先生と担当教諭と打合せ(令和6年1月11日・3月27日)

- ・生徒自身で考えたテーマを探究していく「総合的な探究の時間」を活用し、福祉に興味を持っている生徒に広報活動を考えてもらうということが協議の上決まった。
- ・年間プログラムのため、学校からの要望を確認しながら授業の計画を立案した。

授業1回目(令和6年4月25日)

1

まず福祉とは、助け合い活動とは何かということ
を理解してもらいたい♪

福祉や地域の助け合い活動についての学習
坂町包括支援センター 木下センター長



日頃から地域の人との挨拶や会話を大切にし気に掛けて
いきたい。意見を出し合いより良い町を作っていくす
ばらしさを学んだ。(感想シートより)

授業3回目(令和6年5月30日)

3

地域に出て高齢者の方と関わる前に、認知症の勉強もしてほしい♪
認知症を正しく理解し、認知症との共生社会について学ぶ機会であった。

認知症サポーター養成講座
若年性認知症支援コーディネーター 木田氏
広島市阿戸・矢野地域包括支援センター・認知症地域支援推進員



4

ボランティア体験(令和6年8月5日)

地域の助け合い活動を実際に体験して
いろいろなことを知ってほしい♪
8人の高校生が活動に参加。

やのまち一寸太助共同体の住民主体型
生活支援訪問サービスの草取りを体験



広報活動について(令和6年10月17日)

授業や活動を通したうえで、広報活動を考えてほしい♪
広報活動を新しい視点で思いつくまに記載していった。

5

ポストイットを使いマトリクス図を作成



現時点での到達点 (結果・効果など)

- チラシに広告をつけたり、バスのアナウンスで流すなど、広報活動につ
いて幅広くいろいろな意見を聞くことができた。
- 高校生は自身が活動することも想定しており、意欲があることがわかったため
考えた広報活動を地域の方と一緒に進めていくことも期待できそうであった。

今後の展望など

- 高校生が授業や助け合い活動を通して学び、考えた広報活動を地域の助け合い団体の困りごと解決として
今後は、その考えた案を実際に行ってみたい。高校生も活動に対して前向きであったため、活動も高校生の
力を借りて地域の助け合い活動の困りごとの解決について向き合っていきたい。



生活支援コーディネーターの思い

生活支援団体の困りごと解決として高校生とつながりいろいろな可能性が見えてきました。
今回の授業で進めた内容を地域の方にどうフィードバックしていくか検討していきたいと思
います。

津村

生活支援サポーター養成講座

～みんなで意見を言い合いながら地域活動をするためのアンガーマネジメント～

事例概要

地域の方から、「担い手不足」に困っていると声を聞くが、その要因として新しい人や若い人を受け入れる体制を作ることができていないと感じたため、まずは土壌づくりとして講座を開催することとした。

講座は、2月4日(火)と18日(火)に開催予定。執筆時点(12月)では、まだ実施できていないため、開催までのプロセスを中心に報告する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域住民同士が顔見知りになってもらえるような機会や場を設ける。
- 土壌づくり後の支援。



取組の背景・課題

- 地域の活動者が高齢化する中、新たな担い手確保に苦労しているという話は常日頃から聞いているが、若い人が入らないという現活動者の声の一方で、会議で若い人の意見はなかなか聞いてもらえなかったり、伝統にそぐわないなど、届きづらい現状がある。
その要因として、固定概念や価値観の違いがあり、新しい人や若い人を受け入れる体制を作ることができていないのではと考えた。
- 若い人からは、会議に対する不安感や発言をしても受け止めてもらえないといった声を聞く場面があった。



取組の目的・ねらい

- アンガーマネジメントと題しているが、自分でも気づかない無意識の価値観（アンコンシャスバイアス）を知り、相手に適切に伝えられるスキルを身につける。
- 同じ地域同士でグループワークを取り入れるため、この講座を通して、地域住民同士が顔見知りになる。
- 現在、地域活動をしている方の話しや想いを聞いたり汲み取ったり、また若い人たちが抱えている地域活動の考え方を聞いたりしながら、お互いが認め合い、尊重する。





内容・プロセス

★

2/4 (大) アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)に気付く

1回目

- 自分の怒りのタイプを知ろう！
- あなたの怒りの傾向は？俺様ライオン？白黒パンダ？
- 無意識にこうする“べきだ”と思い込んでいませんか？

2/18 (大) 表現の仕方を考える・意見が言い合える場づくり

2回目

- 自分の“べき”に気付く！相手の価値観を認め合おう
- どのような伝え方をすればいいの？
- 上手な伝え方(リクエスト)のポイント！

キャリアフォーカス
代表 棚多 里美氏

お申し込み方法
TEL: 082-821-2501 FAX: 082-821-2504

下記に必要事項を記載の上、FAXいただくか、QRコードを読み取り申し込みをいただくか、直接電話やメールでも構いません。よろしくお願いいたします。

お名前	
所属 (所属するものに○)	①地区(区)社協 ②町内会 ③サロン関係者 ④その他()
住所	
コメント (希望があれば記載ください)	

申込フォーム→

○令和6年7月

安芸区社協職員が、キャリアフォーカス 代表 棚多 里美氏による「アンガーマネジメント研修」を受講(全4回)した際、地域活動に対する担い手不足の解消につなげられるのではないかと感じた。

○令和6年9月

キャリアフォーカス 代表 棚多 里美氏と打合せ
それぞれ人の価値観は違うこと、地域で考えていたものと違った時でも相手の声に耳を傾けることや、相手に想いを適切に伝えることができるようにすることを目標に開催する研修であることをお伝えした。

○令和6年11月

安芸区ボランティアまつり、サロン訪問時にて広報

○令和7年2月

生活支援サポーター養成講座 開催予定

1回目: 令和7年2月4日(火)

◇ アンコンシャスバイアス(無意識の価値感)に気づく

2回目: 令和7年2月18日(火)

◇ 表現の仕方を考える・意見が言い合える場づくり

現時点での到達点 (結果・効果など)

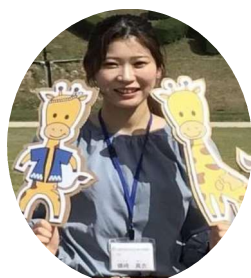
- 地区社協関係者や町内会の方だけではなく、広く参加していただくために、一般参加者も来場されるボランティアまつりにチラシの掲示や配布を行い、実際に参加申し込みがあった。
- 「世代交代していかないといけないけど、若い人が入ってこないの…そんな研修ないかな?」「価値観を押し付けてばかり…頭ではわかっているのにどう伝えたらいいのかわからなくてうまくいかない…」などの声に応える講座を企画する



ボランティアまつりでの広報

今後の展望など

- 講座をして終わりではなく、振り返りや講座後の会議の進め方も含めて一緒に行い考える。



生活支援コーディネーターの思い

地域の方から、「若い人が地域に入ってくれない」などの声を聞くことが多かった
ので、この講座内容にしました。

どちらかが怒りや考え方を我慢するのではなく、適切に伝えられるスキルを身につけることで、地域活動がより進めやすくなるのではないかと感じました。

今回のように、地域から聞こえる困りごとやモヤモヤを少しでも減らしていけるように一緒に考えさせていただけたらと思います。

有馬

佐伯区お役立ち情報誌作成に向けて

～「あったらいいな」に一丸となって取り組んだ事例～

事例概要

昨年度、地域関係者の「お役立ち情報誌の更新ができたらいいな。」というつぶやきを聞き、取組を開始したもの。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 関係機関との情報共有、意見交換
- 社会資源の集約・見える化



取組の背景・課題

- 従来から発行されていたお役立ち情報誌は、住民有志の団体(佐伯区まちづくり百人委員会幸齢者部会)が作成を行っており、平成28年を最後に長期間更新がなされていなかった。そのため、昨年度関係機関や地域関係者から「お役立ち情報誌の更新ができたらいいな。」との声を受け、区社協が『お役立ち情報誌更新部会(区域協議体分科会)』を新たに立上げ、更新に取り組んでいたもの。
更新部会メンバーは、幸齢者部会メンバー、包括、基幹、行政、区社協。



◆完成した冊子◆

- 更新されていない間に、複数の機関がマップや社会資源のリストをそれぞれに作成しているため、社会資源の全体像を把握しづらいという課題があった。



取組の目的・ねらい

- 住民に役立つ社会資源の見える化をする。
- 更新過程において地域の関係団体、専門機関とのつながりを強化する。
- 福祉関係者だけでなく、企業ともつながるきっかけづくりとする。
- 従来のお役立ち情報誌は、高齢者のための冊子であったが、高齢者だけでなく佐伯区にお住いのすべてのの方々のための冊子にする。





内容・プロセス

助け合いサミットでの完成報告

お役立ち情報誌更新部会は令和5年度(2回)・令和6年度(2回)実施。令和5年度は、主に過去作成した情報誌を改めて精査し、掲載内容の情報収集と、追加で掲載したい内容について検討を重ねた。

※以下は、令和6年度の主な取組を掲載



月日	内容
4月23日	●第3回お役立ち情報誌更新部会開催 ・お役立ち情報誌の掲載内容の意見出し(どんな情報をどこまで載せるか、情報が刻々と変わるためURLを載せるか、追加項目はないか、HPの掲載をするか等) ・発行に向けてのスケジュール・予算の確認
6月18日	●第4回お役立ち情報誌更新部会開催 ・情報誌の掲載内容と情報誌(HP版)の内容のすり合わせ ・発行に向けて情報誌のレイアウトや掲載の順番、仕様など細かい部分の意見交換 ・配布先の検討
7月～8月中旬	・お役立ち情報誌更新部会参画メンバーと情報誌の校正を行う ・お役立ち情報誌 HP 掲載に向けて行政(地域起こし推進課)との連絡調整
8月下旬	・お役立ち情報誌完成(1,500部発行)
8月～9月	・佐伯区助け合いサミット、佐伯区地域包括支援センター連絡会議等で完成報告
10月～	・関係機関(地区社協関係者・民生委員・包括・基幹・公民館・郵便局・掲載協力企業等)へ約800部配布 ・HP(広島市・佐伯区社協)への掲載 ・ひろしまええとこ通信第18号(広島市生活支援体制整備事業広報誌)でのPR

現時点での到達点(結果・効果など)

- 関係者・地域住民に延べ約1,000部配布(令和6年11月時点)
- 「情報誌の内容が項目ごとに分かりやすくまとめられているので使いやすい」「地域住民に情報誌を渡したい」等の嬉しい声をいただいております、気になる地域住民からの相談やアプローチに活用していただいている。



今後の展望など

- 更新頻度や方法等を部会で協議し決定したい。
- 活用状況等を定期的に地域の関係者や専門職から聞き取り、今後の新たな取組の参考としたい。

区社協 HP に掲載しています！



生活支援コーディネーターの思い

お役立ち情報誌更新にあたり、たくさんの方々からご協力をいただき、完成することができました。

区域協議体分科会として開催したことで、地域住民・専門職の垣根を越えて連携し合う大切さを学ぶことができました。今後も SC として皆様の「つぶやき」をキャッチし、想いをカタチにするお手伝いができればと思っています。

前田

佐伯区社会福祉協議会

佐伯区助け合いサミット

～たすけてと言い合える地域づくりのために～

事例概要

たすけてと言い合える地域づくりのために、佐伯区社協では、昨年度から助け合いサミットを開催。地域団体による助け合い活動（困りごと支援）の共有のためのサミットであるが、その打ち合わせから振り返りに至るまでの過程について報告する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 実施団体の活動に対する「思い」の見える化
- 他地区の助け合い活動について運営方法等の情報共有
- 関係機関と地域の活動団体とがつながりを作る機会の提供

取組の背景・課題

令和5年度の助け合いサミットでは、地域団体や関係機関に佐伯区の困りごと支援の全体像を把握してもらい、広く浅く共通認識を図ることができた。しかし1回限りでは助け合い活動の広がりには限界があり、アンケートでも「継続した情報共有の場が必要」「意見交換を行いたい」という声が多く寄せられた。これを受け、今年度も引き続き「困りごと支援」をテーマにサミットを開催することとした。

取組の目的・ねらい

- 実施団体の「困りごとを解決するだけではない役割・力・魅力」や、活動に対する「思い」について情報共有を行う。
- 地域住民による支え合い活動と関係機関がつながることの重要性を共に学び、地域住民だけでなく、団体、専門職それぞれがたすけてと言い合える地域づくりを推進する。

内容・プロセス

- 4月 佐伯区内6包括、地域支えあい課、区社協でワーキング会議開催
・今年度も引き続き、助け合いサミットを開催することにした。
- 区内で困りごと支援を実施している3団体(令和5年度とは違う団体)を訪問し、立ち上げ時の苦労や運営方法、活動の思いなどを聞き取った。
 - ① 城山おたすけたい・絆(協同労働団体)と打合せ(5/21、6/18、7/12)
・大切にしていること:「困りごと支援により、みんなが元気で楽しく暮らせるまちづくり」
 - ② 佐伯区観音社協(ボランティアバンク)と打合せ(5/29、8/9、8/23)
・大切にしていること:「出来る人が、出来る事を、出来るだけする」を念頭に、ボランティア活動をすることが負担にならないように。

大切にしていること



～出来る人が、出来る事を、出来るだけする～

③ 藤の木学区社協(住民主体型サービス実施団体)と打合せ(5/29、6/11、8/20)

・大切にしていること:①相談受付時:相談者の気持ちで聞く。(フラットな気持ち)

②支援活動時:楽しく行う。

③その他:活動としてではなく、近所のちょっとした世話好きな人の感覚で。

● 8月28日 第2回佐伯区助け合いサミット開催

・参加者:地区社協役員・拠点スタッフ、住民主体型サービス実施団体、協同労働団体、シルバー人材センター、地域支えあい課(保健師)、包括、区社協等 計59名

団体発表



グループワーク



● 9月13日 第2回佐伯区助け合いサミット反省会

・佐伯区の区域協議体も兼ねて、佐伯区助け合いサミットの反省会を実施。
「毎回同じテーマだとマンネリ化するが、情報共有の場は必要だと思うので、テーマを変えながらも継続開催してほしい。」「参加する人に“自分ごと”と思ってもらえるような会議にしてほしい。」という意見をいただいた。
・今後は生活環境が似ている地域同士で話し合う機会を設けていきたいというような方向性について話し合った。

・参加者:助け合いサミット発表者、包括、地域支えあい課、市・区社協 計16名



現時点での到達点(結果・効果など)

- 団体発表・グループワークなどを通して、実施団体同士、実施団体と関係機関のつながりが深まり、相談しやすい環境が整った。
- 継続して助け合いサミットを開催することで、団体間や専門職との連携が強化され、対応が難しい相談があった場合でも、他の団体へつなぐなど、対応の幅が広がった。
- 同じ地域で活動している団体であっても、これまで関わる機会がなかったが、今回のグループワークを通じてつながることができた。

今後の展望など

昨年度と同じ「困りごと支援」をテーマに開催したが、団体紹介ばかりだとマンネリ化してしまう可能性があるため、今後は地域の課題解決にもつながるよう、団体の課題をテーマにするなどしながら継続的に開催していきたい。

また、一人一人が個人の困りごとをみんな(地域)の困りごととして捉え、積極的に地域活動に関わりをもってもらえるようなサミットを実施していきたい。



生活支援コーディネーターの思い

今年度も引き続き「困りごと支援」について助け合いサミットを開催しましたが、地域の声に耳を傾けながら内容を変えていき、“誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる”ことを目指し、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

白川

広島市における生活支援体制整備事業の推進

～一度立ち止まる時期～

事例概要

令和 5 年度実践事例集で報告した続きとして、生活支援体制整備事業及び協議体について取り組んだことを報告する。今回は主に、行政・包括・市区社協の三者が一度立ち止まり、事業を学び直す機会を設け、改めて「共通認識」を図るための取組を行った。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 市全域における地域づくりに係る意識の醸成の推進
- 三者の連携体制のきっかけづくり及び SC の活動の推進



取組の背景・課題

- 事業開始から 8 年目を迎え、各区区域協議体が様々な形で展開されるようになった。しかしながら、事業に関して三者の「共通認識」が図られていないが故に、担当者それぞれが協議体運営に迷い、悩みながら進めている現状が続いている。
- 事業開始当初は各区、区域協議体を立ち上げることに注力しており、目的や機能、そのための在り方の共有まではできていなかった部分がある。年月が経過し、取組を積み上げていくことで、三者三様の協議体の機能や役割ができあがり、三者間で区域協議体に対する意見の食い違いが生じている区が多くある。
- また、これまでワーキング会議を開催し、市域で事業について検討してきたが、担当者の異動や配置替えによりメンバーの入れ替わり、当初から参加していたメンバーが少なくなったこともあり、当初ワーキングを立ち上げた際の想いや意義・目的にブレが生じてしまった。ワーキング会議の在り方についても見直す必要性を感じていた。

専門職研修会で講師から
事業説明を受けている様子



取組の目的・ねらい

- 三者で一度立ち止まり、事業の成り立ちから理解し、事業及び協議体の目的や考え方に関する共通認識を図る。
- 各区で、これまでの区域協議体の振り返りを行い、改めて区域協議体とはどのような場なのかを話し合い、これからどうしていけばよいかを協議し、区内での「意識合わせ」をするきっかけをつくる。



内容・プロセス

専門職研修会の
グループワーク
で想いの共有



- 令和 6 年 5 月～ 市高齢福祉課と協議、講師との打合せ
 - ・研修会について、内容や講師等の協議。講師には、当初から学識経験者枠で市域協議体の構成員となっていた方に依頼。
 - ・市域で開催する研修会においては、各区地域支えあい課(行政区担当課)の参加率が低いが、事業において地域支えあい課の理解・協力は重要であるため、事前に高齢福祉課から日程調整していただき、地域支えあい課の参加率の高い日時に研修会を設定。
- 令和 6 年 7 月 10 日 第 8 回ワーキング会議の開催
 - ・研修会の内容を協議。各区での協議につながるよう、区ごとのグループワークを入れ込むことに決定。
 - ・ワーキング会議の在り方を相談。事業について様々な視点で検討できるようメンバーを再検討することに。今年度は見直し・検討とし、定期的なワーク会議の開催は見送ることにした。
- 令和 6 年 8 月 21 日 広島市生活支援体制整備事業専門職研修会
 - ・全面集合型にしたにも関わらず、100 名の参加が得られた。
 - ・講師から地域包括ケアシステムの成り立ち、行政から広島市の考え・事業の位置づけ等を説明し、各区での区域協議体の振り返りを提案した。
- 令和 6 年 8 月 21 日以降 担当者等会議での振り返り及び状況確認・区域協議体の在り方検討の場に同席
 - ・全区ではないが、区域協議体の検討の場に市SCの立場で出席し、考え方の説明や各区の状況をお伝え。
- 令和 6 年 11 月 市域協議体構成員個別訪問協議
 - ・区域協議体の状況を鑑み、有意義な場にならないと判断し、8 月に開催予定であった市域協議体を取りやめたため、個別訪問し、現状等を報告。市域・区域協議体についてアドバイスをいただいた。
- 令和 6 年 11 月 21 日 社協職員全体研修 事後ワーク
 - ・市社協内で、他部署の事業を理解する・体験するという職員研修事後ワークが実施され、当係には 10 名の希望者があった。事業説明や抱えている課題を共有し、他部署職員の理解も推進した。

現時点での到達点（結果・効果など）

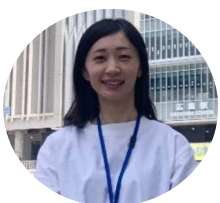
- これまでの区域協議体の振り返りを行い、改めて区域協議体とはどのような場なのか話し合いを始めている区もある。市域でみると、これまでよりもより協議体の動きが出てきている印象がある。
- 市域協議体構成員個別訪問協議をしたことにより、市域協議体の構成員にも現状を理解いただき、協力体制の構築が進んでいる。

今後の展望など

- 市域協議体を 3 月に開催し、各区の取組状況を共有し合う予定。
今後、市域協議体のメンバーも流動的に考え、区域協議体や小地域での課題検討の場にも必要に応じて参加を依頼する。
- 市区社協内での事業理解を地道に進めていく。



事後ワークで悩みやワクワクを共有



生活支援コーディネーターの思い

これまで各担当者等が悩みながら取り組んできた 7 年間があるからこそ、振り返りが必要な時期が来たと思っています。「高齢者等が住み慣れた地域で暮らし続けられるような地域づくり」を目的に、理解者を増やしながら、進めて行きたいと思っています。

石井

高齢者の暮らしを支える地域住民の支え合い活動の推進 ～市民向け総合事業啓発研修会の開催～

事例概要

地域住民を対象とした総合事業の啓発及び地域の支え合いの体制づくりの意識の醸成を目的とした研修会を開催。開催に至るまでの経緯を報告する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 総合事業の普及啓発。
- 研修会の企画と運営。
- 講師、実践報告者の調整。



取組の背景・課題

高齢者人口は「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には約3,657万人を達すると見込まれている。しかしながら、日本の人口は若い世代を中心に急激に減少していることで、様々な問題が生じてくることが予想される。福祉分野においては、医療や介護のニーズが急増する一方で、生産年齢人口減少により介護業界を始めとする様々な産業において支え手が足りない状況となってくる。そのような状況を解決するためには、地域包括ケアシステムの推進や身近な地域コミュニティでの支援活動の推進が重要な鍵を握っている。

住み慣れた地域で暮らし続けるために、広島市においても介護予防の取組や多様な活躍、活動の場を作ることで元気な高齢者を増やすことや支える側、支えられる側と区別されることなく、誰もが生きがいをもって地域の支え手として活躍できる地域づくりを地域住民と専門職が一体となって取り組んでいく必要がある。



取組の目的・ねらい

- 地域住民や専門職、企業を対象に、総合事業の啓発及び地域の支え合いの体制づくりの意識の醸成を図ることで、地域活動協力者の拡大。



内容・プロセス

- 令和6年6月 総合事業の目的である「住み慣れた地域で暮らし続ける」ために、地域住民と専門職が共に地域の支え合い活動について一緒に考える場となるように内容を検討。総合事業の趣旨をより身近に感じてもらうために講演だけでなく、支え合い活動に取り組まれている地域団体の報告も取り入れることにした。

地域リハビリテーション活動に積極的に取り組まれており、地域活動や地域の支え合いを重要視されている西広島リハビリテーション病院地域連携部副部長・作業療法士 岡光孝氏に講師を依頼。

地域団体の選出においては、地域団体と密に関わりがある区 SC の取組報告から、日頃から気にかけて、地域のつながりを大切に通りの場の運営をされている「月見ヶ丘交友会」(東区)と地域住民と専門職が協働し、地域の見守り、支え合いの体制づくりを実践されている「鉾取老人クラブ」(安芸区)・広島市瀬野川東地域包括支援センターに依頼する。

また、広島市の事業担当者から見守り支え合う地域づくりの推進について「第9期高齢者施策推進プラン」を基に説明をしてもらうこととした。

- **令和6年7月** 西広島リハビリテーション病院 岡氏と打合せ。研修会の趣旨を説明する中で岡氏に日頃の地域住民同士の支え合い活動や市・区社協として地域づくりに対する思いを知ってもらうことができた。
- **令和6年8月** 月見ヶ丘交友会の通いの場に訪問し打合せ。東区社協 佐々木 SC に同行してもらう。鉾取老人クラブ 吉島会長、広島市瀬野川東地域包括支援センター 鎌倉センター長と打合せ。安芸区社協 有馬SCに同行してもらう。今回の研修会の趣旨説明や依頼をする中で両団体が普段の活動の中で行っている何気ない支え合い、当たり前に行われていることが住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な取組であることを団体に伝えることができた。
- **令和6年9月** 啓発研修会を中区と東区の会場で開催。通いの場の実務者や包括、行政、区社協が参加。



- **令和6年10月** 講師、実践報告者に研修会での参加者の声を取りまとめたものを訪問や電話等で報告。

令和6年9月 高齢者大学 活動ポイント対象 介護予防・日常生活支援総合事業市民啓発研修会

地域で自分らしく暮らし続けるために
地域リハビリテーション活動から考える
住民主体の「通いの場」の効果について
社会福祉の「通いの場」の重要性を再認識し
支え合いの場についてみんなで考えてみましょう

9/5(木)・9/6(金)
13:30～15:30

東区総合福祉センター3階大会議室 (東区東区東町9-34)
中区地域福祉センター5階大会議室 (中区大手町4-1-1)

内 容

【行政説明】
「第9期広島市高齢者施策推進プランについて」
広島市健康福祉局高齢福祉部高齢福祉課 職員

【講 義】
「地域リハビリテーション活動から考える
住民主体の「通いの場」の効果について」
西広島リハビリテーション病院 地域連携推進課 岡 光孝氏
作業療法士

【通いの場の実践報告】

9/5(木)	9/6(金)
月見ヶ丘交友会(東区高島学区) 輪田 文子氏 長瀬 節子氏 菊田 和昭氏	鉾取老人クラブ(安芸区中野東学区) 吉島 裕氏 広島市瀬野川東地域包括支援センター職員

【定 員】 各会場 60名(先着順)
【申 込】 趣旨の参加申込書を問合せ先FAXもしくはメール
二次元コードからも申し込み
8月26日(月) 申込締切

問合せ先

広島市社会福祉協議会 ☎082-236-6172 ☎082-264-6413
電話相談室(高齢福祉課) ☎082-236-6172
〒730-0811 広島市南区南大蔵2-1-1
主催 社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

現時点での到達点（結果・効果など）

- 研修に参加された地域住民からは、「通いの場の大切なことは今日のお話の中で自分にとっても重要であることを痛感しました。」「ご家族が認知症で参加を控えておられる方を再度一緒にお誘いすることをやってみたい。」「個別ケースだけでなく、地域全体を巻き込んで我がごととしてみんなに考えてもらえるよう総力戦で取り組まれたのがすごい!」、専門職からは、「介護予防拠点担当者としてのモチベーションもあがりました。」「担当ケアマネが地域との活動とインフォーマルサービスの調整を行っておられることについて感銘を受けました。」という声を多く聞くことができた。
- 今回の研修会において、総合事業の趣旨や地域住民同士の支え合い活動、専門職との協働の重要性を知ってもらうことができた。

今後の展望など

- 高齢者がなじみの関係から切り離されることなく、住み慣れた地域で暮らし続けるためには「自助」「互助」「共助」「公助」のバランスが必要。「地域住民だけ」「専門職だけ」「社協だけ」「行政だけ」で支えることが難しい時代となってきた。これからの時代を総力戦で乗り切っていくためにこれからも啓発活動を行いながら、協力者を増やしていきたい。



生活支援コーディネーターの思い

要介護、認知症になったとしても地域で暮らすことをあきらめないために、元気な高齢者、元気な地域(くらし)づくりを地域住民、専門職、行政と協働しながら行っていきます。

川中

広島市生活支援体制整備事業広報紙 『ひろしまええとこ通信』

広島市社協では、令和2年度から各地域で実践されている『ええとこ』を広く紹介する『ひろしまええとこ通信』を年4回発行しています。

地域活動の耳寄りな情報を定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指しています。

これまで発行した『ひろしまええとこ通信』は、広島市社協のホームページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。



広島市社協ホームページ 広報紙・刊行物

https://shakyo-hiroshima.jp/koho_list.php







令和6年度

広島市第1層生活支援コーディネーター実践事例集

発行者 社会福祉法人広島市社会福祉協議会
 〒732-0822 広島市南区松原町5番1号
 広島市総合福祉センター（BIG FRONTひろしま）
 TEL 082-236-6172 FAX 082-264-6413
 E-mail kyousei@shakyohiroshima-city.or.jp

発行年月 令和7年3月

発行部数 250部